

あおぞら



江戸川区立小松川中学校
第1学年
令和7年9月26日
第20号

📅 週の予定 9月29日～10月3日

月日	曜	で き ご と	1	2	3	4	給	5	6
9 / 29	月	全校朝礼 教育実習始	学	②	③	④	○	⑤	⑥
9 / 30	火		①	②	③	④	○	⑤	⑥
10 / 1	水	都民の日							
10 / 2	木	芸能祭音楽会 修学旅行	①	②	③	④	○	⑤	⑥
10 / 3	金		①	②	③	④	○	⑤	総



.....✕・き.....り.....と.....り.....✕.....
《ひとことNo. 20》1年()組()番
()
掲載可否～() 掲載をご希望されない場合は ✕ をご記入ください。

「こんな教師でありたい」

1年2組 担任

みなさん、中間テストお疲れさまでした。勉強した成果を発揮することができましたか？今回の学年だよりでは、私の学生時代の経験についてお話をしたいと思います。

私は小中高そして大学でも吹奏楽部に所属しクラリネットを担当していました。その10年を超える長い活動では楽しかったことや辛かったことがたくさんありました。そして、その中で一番印象に残っていることがあります。それは高校時代の顧問の先生からかけられた言葉です。

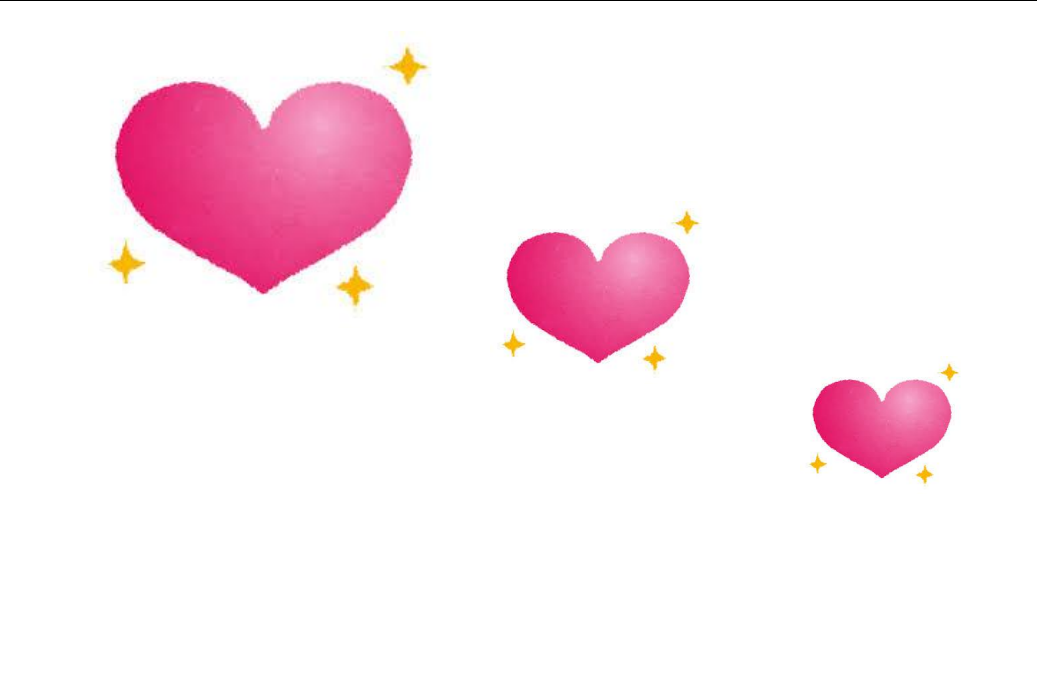
高校2年生の頃、コンクールの後に音楽発表会で披露する曲のソロパートを練習していました。そのソロパートは、ある程度の技術と表現力が必要で、自分の中で『上手く吹けた！』と思うような満足できる演奏ができませんでした。しかし、全体での合奏練習の時に、顧問の先生が私のソロの部分を指摘することはほとんどありませんでした。自分なりに練習を重ねましたが、どんどんスランプになっていき、自分の演奏に自信が持てなくなってきました。

そんな中で行われた合奏練習で初めて顧問の先生が私のソロについて言いました。『橋本、私は悔しいよ！あなたのソロはすごく良かったのに、コンクールの時、誰も講評にその事を書かなかった。それがとっても悔しい。だから今回は、あなたのソロを客席で響かせて。橋本、あなたの演奏は素晴らしいんだから、もっと自信もってやりな！』

その顧問の先生は元々熱い方でしたが、それまで私の演奏に対してこんなに熱く指導してくれる事はありませんでした。もちろんそれは、私が下手だからという意味ではなく、『あなたはちゃんと吹けてるから、そんなに言うことないね。』という感じで、コンクールの時もこの時のソロも『可もなく不可もなく』なのかなと私は考えていました。しかしこの熱い言葉を聞いて、先生が私に対してどんな風に思っていたのかがわかりました。そして、それがすごく嬉しかったのを覚えています。同時に、それまではソロを演奏することに対して必要以上に気負い過ぎてしまっていたことに気がつきました。完璧にやろうとするのではなく、もっと肩の力を抜いて、自分らしい演奏をすればいいんだと気づきました。そのおかげで、その後の演奏会では心から演奏を楽しみ、今までで1番良い演奏をすることができたと感じました。

そしてこの事がきっかけで、私は教員になってみたいと考えるようになりました。技術を教えるだけでなく、この時の先生のように誰かの背中をそっと押して、手助けしてあげられるような教員になりたいと思うようになりました。これからの3年間、みなさんも様々な場面でつまづいてしまうことがあると思います。その時に、私は、君たちの背中を押す教員の1人でありたいと思います。

～ひとこと ありがとうございます～



試験に向けて計画的に学習して 2 週間で 80 時間以上学習できた人もいます。

